

川越「サツマイモまんが資料館」オープン

～2019年12月1日、川越の観光地・蔵造り街並み通りに開設～

川越いも友の会 事務局長

やまだ えいじ
山田 英次

1 はじめに～イモ文化の町・川越～

川越地方は、昔よりサツマイモの歴史文化が豊かな地域として有名である。特に、昭和60年頃より、川越の蔵造りの街並み通りが観光地として急速に脚光を浴びるようになってから、サツマイモの各種商品やイモ料理を出す飲食店が爆発的に増えた。

現在の川越のサツマイモ商品振興に大きく役割を果たしたのが、川越いも友の会(昭和59年発足)と川越サツマイモ商品振興会(平成6年発足)の文化活動であるが、その中で大きな存在だったのが、サツマイモ料理専門店のいも膳が開設した「サツマイモ資料館」(川越市小室)だった。



写真1 元サツマイモ資料館(いも膳敷地内)の正面玄関(1989-2008)

2 20年間続いたサツマイモ資料館とは

そのサツマイモ資料館は、川越いも友の会の協力を得て、平成元年4月にオープンし、はじめの3年間は私(山田)が館長を勤め、その後はサツマイモ歴史文化研究家の井上浩先生(元日本いも類研究会会長)が、平成20年6月に閉館するまで17年間勤めた。一日平均約100名の来館者があり、年間約3万人が訪れるユニークな施設だった。キャッチフレーズは「世界で唯一のサツマイモ資料館」であったため、国内(沖縄・鹿児島・宮崎はもとより茨城・千葉など各産地など)から多くのサツマイモ関係者が来館し、資料館を中心にサツマイモ情報の人的ネットワークが築かれた。中国や東南アジアなどの海外のサツマイモ研究者



写真2 元サツマイモ資料館の2階展示場

も川越のイモ料理とイモ商品視察に来た時には、必ず立ち寄る施設だった。

特に、平成初期は、今ほどインターネットが発達していなかったため、マスコミ関係からのサツマイモに関する各種情報の問い合わせの窓口的な役割が大きく、秋のシーズンともなると一日3件もの電話があり、平均1件につき約30分も対応しなければならなかった。また、その後、ネットが発達してもレアで専門的なことはネット等でもわからないため、サツマイモに関する様々な事柄について多くの問い合わせがあり、館長はひとつひとつ正確に答えなければならなかった。

残念ながら20年間の運営で閉館してしまっただが、閉館を惜しむ声とともに、展示資料を是非うちの施設で引き取りたいという要望が何件かあった。結局、約700点あった資料は川越市立博物館に引き取られることとなった。

3 川越のイモ振興のための拠点を

川越サツマイモ商品振興会の、当初よりの会員で世話人であった紋蔵庵の小泉昌弘社長から、2018年11月末に川越の蔵造り街並み店をオープンするに当たって、店の蔵造りの2階のスペースを、川越サツマイモ商品振興会で「川越のイモ振興のために何か有効活用できないか」との相談が私にあった。そこで、各関係者にも下相談し、市立博物館に眠っているイモ資料を再活用しつつ、「川越のイモ文化とサツマイモの世界をわかり易く情報発信できるミニ資料館を設置しよう」ということになった。

しかし、サツマイモ関係の博物館は、茨城県行方市にある「やきいもミュージアム」

など大型施設がすでに存在していたため、いろいろとアイデアをひねって「小さくともユニークで、全国のおイモ関係者と繋がれ、且つ川越の観光振興にも役立つような施設で、更にわかり易いイラスト等を活用した、主に情報発信やネットワーク、交流をメインとした施設に」ということにした。その結果、正式名称は「サツマイモまんが資料館&川越いも学校」とし、東京都足立区の「さつまいも情報センター」（さつまいもカンパニー内）とも密な連携をとることとなった。

4 目的・事業・運営体制など

運営主体は川越サツマイモ商品振興会（代表：神山正久いも膳社長）で、会場の使用は紋蔵庵の小泉昌弘社長のご厚意で、無償で提供していただけることになった。



写真3 サツマイモまんが資料館がある
紋蔵庵蔵の街店正面

その建物は、約100年も経つ蔵造りの2階で、約15坪の広さで川越市の指定文化財にもなっている。

資料館の主な目的は、1) イラストや漫画などを使用して一般の方にわかり易くサツマイモの世界や川越イモの歴史文化を伝



写真4 資料館2階への案内看板

える、2) さつまいも情報センターや他の多くの機関・団体等と連携し、「川越いも学校」を併設してミニ講義を行い正しい情報を伝える、3) 川越いも文化の伝承者を育成する、などである。



写真5 資料館の展示風景A

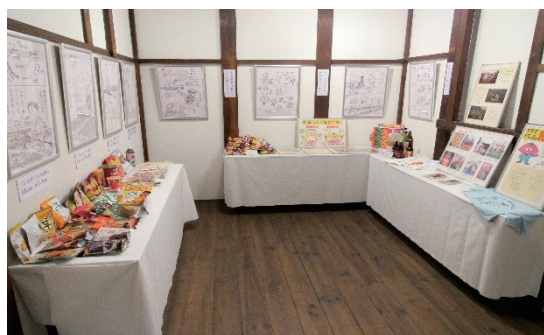


写真6 資料館の展示風景B

具体的な事業内容は、①サツマイモのイラスト等のパネル展示（市立博物館所蔵の

約50点の元サツマイモ資料館の展示資料を借用）・生芋展示・各種商品展示など、②川越いも学校のミニ講義（各テーマ別に行う、③情報交換や試食・ミニ体験ツアーなど楽しい「おいもサロン」を随時行う、④川越いも文化継承のための育成塾を開くなどである。



写真7 資料館内のミニ講義スペース

見学は無料であるが、ミニ講義（資料代等で500円）とおいもサロン（参加実費）は有料である。実際の企画運営は、館長2名体制で私・山田英次とベアリ・ドゥエル先生（川越いも友の会会長）と、副館長の橋本亜友樹氏（さつまいも情報センター長）の3名で行っている。

5 利用運営上の課題と問題は

川越市の協働事業の補助金と、賛同していただいた方（約40件）よりの協賛金により、何とか2019年12月1日（日）〈第2回紅赤いもの日〉にオープンすることができ、当日は約40名の関係者にお集りいただきお披露目することができた。しかし、まだ内容的には完璧ではなく、予定の6割程度しかできていない。展示のイラストパネル製

作も未完のものがまだ多くあり、説明の英文解説の表示も遅れているし、ミニ講義の資料作成なども終わっていない。会場のネット環境も不十分であるし、展示に必要な図書等もいろいろと揃えられていない。

このようにまだ多くの課題を抱えているが、協力していただける方々の支援を得て少しずつ整備し進展していきたいと思っている。しかし一番大きな問題は、今後の運営資金をどのように上手に調達していくかであり、後継者を育て長く運営していくためには、しっかりとした資金確保が必要である。この点については、いろいろな方よりアドバイスをいただきながら知恵を絞りつつ、解決したいと思っている。



写真8 川越サツマイモ商品振興会 有志メンバー

6 おいもサロンの活用による交流を

今回、イモまんが資料館をオープンしてみても効果があったことは、まず地元の方々が「川越いものことについて詳しく知る場ができて良かった」との声をいただいた。また傾向として観光客ではなく、地元市民やおいも好きの方が見学の中心となっている。さらに、サツマイモに関する専門的な問い合わせも少しずつ寄せられてきている。

館長として考えていることは、現在、お

いも関係者が気軽に集まって、いろいろと情報交換ができる場がないと思っている。今後のイモ類関係の更なる発展を考えると、関係者の自由な交流の場とネットワークづくりが重要と考えている。東京には「さつまいも情報センター」があり約10名程度が集まれるスペースがある。イモまんが資料館も約10名程度集まって交流できるスペースがある。

よって、そのスペースを利用して「おいもサロン」という名目でイモ類関係者に上手に活用していただきたいと思っている。情報交換や交流を図りたいと思っている方は、ぜひ一度連絡をしていただきたい。

7 連絡先は・・・

現在、2月下旬よりの新型コロナウイルス感染の影響で、3月から資料館の運営も止まってしまったが、感染防止対策を取りながら事業を少しずつ進めたいと考えている。もともと少人数のみの受け入れ態勢なので、機会をみてぜひ一度足をお運びいただき、おいもについて自由な意見を聞かせていただきたい。月2回の開館日以外でも、都合を調整することは可能なので、ぜひ関心のある方は、下記へご連絡をいただければと思っている。専用のホームページからか、お電話をいただければリーフレットなどを送ります。

◆サツマイモまんが資料館&川越いも学校
〒350-0062 埼玉県川越市元町1-15-5
紋蔵庵蔵の街店2階
連絡電話：山田宛080-1342-2177
E-mail：museum@sweetpotato.info
URL：https://sweetpotato.info/